

小学生の低身長対策のための保健室業務支援システムの構築

015151 中島 聖乃

(指導教員 速水 治夫 教授)

1. はじめに

子供の低身長は、成長ホルモン分泌不全などの原因により身長の低い状態である。低身長の治療は骨の成熟が進み、成熟が完成してしまうと効果が出ないため早期治療が重要である。

低身長は、周囲の大人などが気にかけてあげることが必要である。しかし一番身近な親は、専門医療機関があるということを知っている親は多くはないし、健康上は元気なので気付きにくい。そのため、小学校の養護教諭が気付いてあげることが大切である。養護教諭は毎日たくさんの正常な子どもたちの中で働いている為に成長に異常を感じる生徒に気付くことが出来る。しかし、低身長の判断方法は何通りもあり、すべての生徒に目を向けることが出来ずに生徒の低身長の疑いを見落としてしまう場合がある。



図2 身長実測値からだすSD値の計算画面

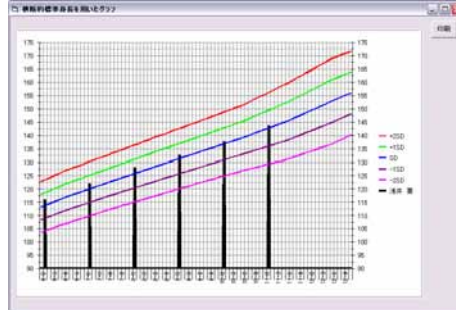


図3 グラフ表示画面

2. 目的

低身長を調べる際の、計算方法が多様である。また身長の成長曲線などを手書きするのは時間がかかる。これらのことから全員の生徒に目が向けられずに低身長の兆候を見逃す場合がある。

3. システム構成

低身長の判定方法を「身長実測値からだすSD値の計算画面」、「成長実測値からだすSD値の計算画面」、「グラフ表示画面」の3つを用いて検討することが出来る。また「生徒個人情報の詳細表示画面」ではチェック機能を付け、気になる生徒をすぐピックアップできる。



図4 生徒個人情報の詳細表示画面

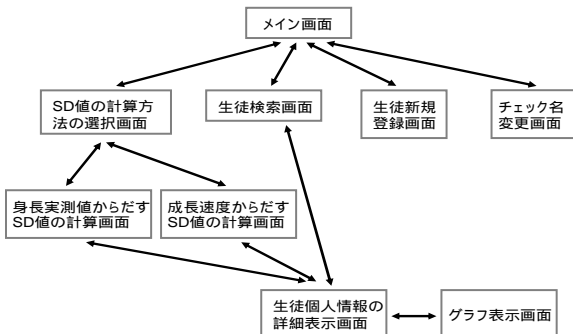


図1 システム構成

4. まとめ

様々な角度から生徒の身長の伸び方を見るために、SDスコアの計算を、現在の身長から計算するSDスコアと成長の伸びから計算するSDスコアの二通りを可能にした事、SDスコアが、低身長範囲の境界ぎりぎりの生徒もいるのでSDスコア検索に幅を持たせた事、チェック機能を付け、気になる生徒をすぐにピックアップできる機能をつける事、成長曲線で生徒の成長の仕方をグラフで確認できる機能をつけた事などをシステム化した事で、より短時間に、生徒の低身長の兆候を見落さずに済む結果となった。